

## 宮城大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2019年度>

<改善報告書検討実施年度：2023年度>

宮城大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、1点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

### <改善に向けた大学全体の取り組み>

大学評価結果を受け、大学全体の質保証を担う「評価委員会」から「教育研究審議会」に指摘事項を報告し、各部局・組織と連携し改善の協議を行っている。改善課題である研究科における学習成果の把握・評価に関しては、全学組織であるカリキュラムセンターと全研究科が連携し、2019年度から改善に取り組んできた。2020年度には、「評価委員会」のもとに「内部質保証実施委員会」を設置し、同委員会において「内部質保証システム実施要綱」に基づくPDC Aの実施・点検項目を明示した「内部質保証システムチェックシート」を作成し、さらに、2021年度には「宮城大学教学アセスメントプラン」を定めて教学に係る評価項目を明示している。これらにより、着実に改善が進められているかを「内部質保証実施委員会」が点検し、「評価委員会」に報告する仕組みを構築している。大学全体として計画的かつ組織的に改善に努めていることが認められる。

### <是正勧告、改善課題の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているといえる。

個別の提言に対する改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、以下のとおりである。

#### 1. 是正勧告

なし

#### 2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	研究科において学生へのアンケート調査を実施しているものの、学位授与方針に示した学習成果の把握としては十分ではないため、学位授与方針に示した学習成果を把握・評価するよう改善が求められる。

## 宮城大学

	検討所見	<p>研究科における学習成果の把握について、全学組織であるカリキュラムセンターが検討を行い、先行して導入していた学部の方法を参考に、学位授与方針の3項目に対する達成度を「学部卒業（研究科修了）時の学修成果測定シート」を用いて教員及び学生が評価する仕組みを導入し、学習成果の習得状況を把握していることから、改善が認められる。</p> <p>なお、学位授与方針に示している学習成果について、必ずしも具体的な知識・技能・態度等として定めていないことから、教員や学生がその達成度を測ることができるよう、工夫を講じることが期待される。</p>
--	------	--

◆ 再度報告を求める事項

なし

以上